

Injury Alert (傷害速報)類似事例

高吸水性樹脂球の誤飲による腸閉塞(No.109 高吸水性樹脂球の誤飲による腸閉塞の類似事例 2)

事例	基本情報	年齢：4歳 8か月 性別：男児 体重：19kg 身長：110cm
	家族構成	父、母、本児、妹
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		腸閉塞、異物誤飲
医療費		入院 139,810 円 (医療機関 B) 入院 725,180 円 (医療機関 C)
原因対象	対象名称	水で膨らむボール (高吸水性樹脂製品)
	入手経路 使用状況	5カ月前に100円均一ショップで新品を購入した。購入後、浴室で5-6回使用していたが、使用時は大人が目を離さないようにしていた。当初は浴室に保管し袋から数個ずつ取り出して遊んでいたが、残り少なくなったので蓋のないガラス瓶に入れて、脱衣所の床に置きっぱなしになっていた。
発生状況	発生場所	自宅内
	周囲の人 周囲の環境	母が気づいた時には、膨らむ前のボールが入ったガラス瓶を患児が自分で脱衣所から持ち出して、リビングで遊んでいた。気づいてからは母親と一緒に遊び、目を離していなかったが、その間に明らかな誤飲は目撃されなかった。
	発生年月日	2021年12月 X日(金) 詳細時間不明
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	12月X日、本児がいつの間にか対象玩具をリビングに持ち出して遊んでいた。X+1日は無症状で経過し、X+2日の朝食後より突然の嘔吐が出現した。午前11時ごろに医療機関Aを受診し胃腸炎と診断され帰宅したが、その後も、嘔吐と腹痛を繰り返すため午後1時ごろに救急車で医療機関Bを受診した。

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>受診時、バイタルサインに異常なく、腹部は平坦軟であり、腹部 X 線検査、腹部超音波検査ではやや腸液の貯留が目立つ以外の明らかな異常を認めなかった。浣腸にて水様便が排出後は腹痛が軽快し、胃腸炎による麻痺性イレウスの疑いで同日入院となった。絶飲食管理中も間欠的な嘔吐と腹痛が続き、X+3 日朝に胆汁性嘔吐となった。腹部 CT を施行したところ、腸閉塞の診断となるがその原因は不明であった (図 1)。同日、小児外科のある医療機関 C に転院となり、試験開腹手術が施行された。回腸に異物が触知され(図 2)、腸管外から用手的圧迫で結腸に誘導され、小腸に貯留していた腸液の流出も確認できたため、腸切除は行われず閉腹となった。X+5 日目に異物が排出された (図 3)。その後、X+7 日 (術後 5 日目) に退院となった。</p>
<p>キーワード</p>	<p>高吸水性樹脂球、水で膨らむボール、異物誤飲、腸閉塞</p>

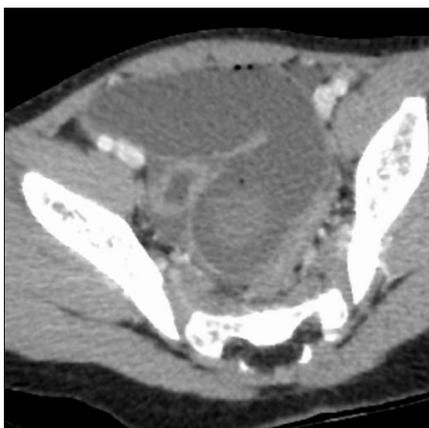


図 1. 腹部 CT 画像。骨盤腔内で拡張した腸管内腔内に淡い高吸収を認め、それより尾側で caliber change を認める。異物か食物かの判断は困難であった。

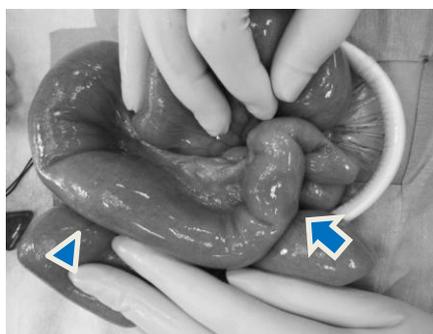


図 2. 回腸に触知された球状の異物 (↑) と拡張した口側小腸 (△)

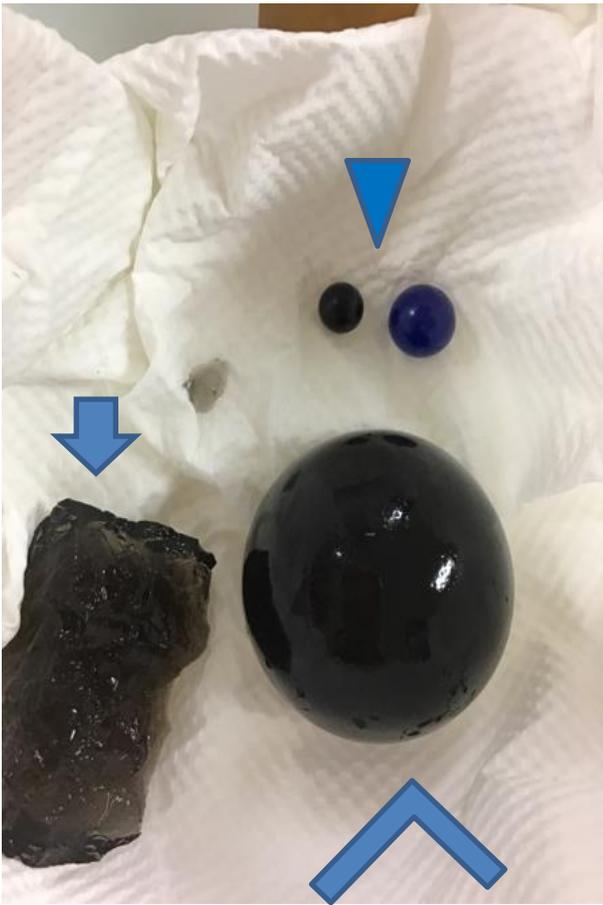


図 3. 排出された異物(↑)は術中の用手排出操作でくずれていた。自宅から持参した同製品の吸水前(△)と吸水後(>)